

# 「クリニカルラダー『レベル新人』」に対応した教育プログラムより

		教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価	
倫理的 感応力	ケア の 姿勢	①ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる ②ケアリングの重要性が理解できる ③ケアリングの主要な概念をもとに行動できる （知ること／共にいること／誰かのために行うこと／可能にする力を持つこと／信念を維持すること）	・講義（ケアリングの定義：助産実践におけるケアリングの意義、実践事例の紹介） ・OJT（自らの実践事例の振り返り）	・振り返り ・カンファレンスへの参加度や発言内容を評価	
		<p><b>【情報収集】</b></p> <p>①支援を受けながら、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生活行動診断・経過診断に必要な情報を理解できる ②定められたフォームに従い、情報収集できる ③指導を受けながら、不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集できる ④助産ケア基準・手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる</p> <p><b>【アセスメント／問題（ニーズ）の明確化】</b></p> <p><b>ローリスク</b></p> <p>①妊産褥婦・新生児のバイタルサイン、検査値、身体の諸計測値の正常値がわかる ②産科に関連する解剖生理を理解できる ③支援を受けながら、測定値のもつ意味を理解できる ④支援を受けながら、収集した健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる ⑤周産期の代表的疾患について病態が理解できる</p> <p><b>【診断】</b></p> <p>①支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる</p> <p><b>【計画立案】</b></p> <p>①妊産褥婦・新生児の現在の状態およびニーズを理解できる ②支援を受けながら、妊産褥婦・新生児のニーズに沿って目標を設定できる ③支援を受けながら、妊産褥婦・新生児の状態、問題リスト、目標に一貫性がある計画を立てられる ④5W1Hを踏まえた具体的な計画を立案できる ⑤助産ケア基準・標準助産計画を活用できる</p> <p><b>【実践】</b></p> <p>①助産行為を行う前に必ず説明できる ②新人研修の内容を確実に実施できる ③支援を受けながら、受持ち妊産褥婦・新生児の助産ケア計画に沿ってケアを実践できる ④治療および診断上必要な観察を行い、適切に報告できる ⑤指示された業務を、助産ケア基準・手順に沿って正しくかつ安全に実施できる ⑥実施した結果を助産記録の手順に沿って正しく記録できる ⑦緊急時の対応を理解している ⑧緊急時に人を呼ぶことができる ⑨緊急時に必要な物品を知り、手順に沿って整備できる ⑩クリニカルパス使用の場合、それを理解できる</p> <p><b>【評価】</b></p> <p>①提供した助産ケアの結果を正確に報告できる ②助産実践においてわからないことが言える</p>	<p>・教育担当者によるOJT（各期のケアに必要な情報を、チェックリストを用いて実践前に個別に確認）</p> <p>・講義（施設における助産記録の基準や手順など）</p> <p>・講義（正しい助産記録の原則、記録の方法、家族参加型記録※の意義と方法など）</p> <p>・監査（監査用紙を用いた、上記原則に基づく記録の継続的指導）</p>	<p>・OJTチェックリスト</p> <p>・知識の確認、振り返り</p> <p>・監査項目に沿った監査と評価</p>	
マタニティ ケア能力	妊娠 期・ 分娩 期・ 産褥 期 新 生 児 期 の 診 断 と ケ ア ／ 分 娩 期 の 配 慮 の 視 点	<p><b>【妊娠期の診断とケア】</b></p> <p>①支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる</p> <p><b>【分娩期の診断とケア】</b></p> <p>①支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる</p> <p><b>【産褥期の診断とケア】</b></p> <p>①支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる</p> <p><b>【新生児期の診断とケア】</b></p> <p>①支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる</p>	<p><b>【妊娠期の診断とケア】</b></p> <p>基本的知識は、実践前にチェックリストを用いて個別に確認</p> <p>・実践前に教育担当者により確認（正常な妊娠の経過とケア／ローリスクからハイリスクまでの妊娠期にある女性の心理／母乳育児の意義および妊娠中のケア）</p> <p>・講義（ハイリスク妊娠／主要な疾患に関する病態とケア〔切迫流早産、PIH※、前置胎盤、多胎、GDM※、FGR※など〕／臨床薬理〔含む陣痛促進剤〕／検査データの見方）</p> <p>・演習（フィジカルアセスメント※〔脳神経・呼吸循環・代謝〕）</p> <p>・OJT（事例の振り返り）</p> <p><b>CTGについて（講義と演習、実践）</b></p> <p>・CTGによる胎児心拍モニタリングの適応／正しい装着方法／判読（基礎・応用）</p> <p>※適応事例の判断から装着（説明）、判読および結果報告と対応を事例を通じて実践する</p> <p><b>【分娩期の診断とケア】</b></p> <p>基本的知識は、実践前にチェックリストを用いて個別に確認</p> <p>・実践前に教育担当者により確認（正常な分娩の経過とケア／ローリスクからハイリスクまでの分娩期にある女性の心理／母乳育児）</p> <p>・講義（ハイリスク分娩／主要な疾患に関する病態とケア〔切迫流早産、PIH、前置胎盤、多胎、GDM、FGRなど〕／臨床薬理〔含む陣痛促進剤〕／検査データの見方）</p> <p>・演習（母体救急／BLS※〔頸管裂傷・臍壁血腫などの緊急時対応シミュレーション〕／静脈注射／フリースタイル）</p> <p>・OJT（事例の振り返り）</p> <p><b>【産褥期の診断とケア】</b></p> <p>基本的知識は、実践前にチェックリストを用いて個別に確認</p> <p>・実践前に教育担当者により確認（正常な産褥の経過とケア／ローリスクからハイリスクまでの産褥期にある女性の心理／母乳育児）</p> <p>・講義（ハイリスク分娩／主要な疾患に関する病態とケア〔切迫流早産、PIH、前置胎盤、多胎、GDM、FGRなど〕／臨床薬理〔含む陣痛促進剤〕／検査データの見方）</p> <p>・演習（母体救急）</p> <p>・OJT（事例の振り返り）</p> <p><b>【新生児期の診断とケア】</b></p> <p>・講義（出生直後のフィジカルアセスメント／NCPR※／新生児の解剖生理学的特徴とそれに基づくケア／ハイリスク新生児の特徴とケア／ハイリスク新生児の家族へのケア）</p> <p>・演習（出生直後のフィジカルアセスメント／NCPR）※NCPRのBコース未取得者は取得</p> <p>・OJT（実際の事例の振り返り）</p>	<p>・講義は知識の確認と振り返り</p> <p>・OJTおよび演習は技術の確認</p>	
		専門的 自律能力	教 育	指導	<p>①継続教育プログラムの意義を理解できる ②支援を受けながら、自己のレベルに合った院内・院外の研修や勉強会に積極的に参加できる</p>
自己 開 発	<p>①日々の行動を振り返り、整理することができる ②他者のアドバイスを素直に受け止めることができる ③支援を受けながら、自己評価と他者評価を踏まえた自己の学習課題を考えることができる ④支援を受けながら、課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ⑤支援を受けながら、学習の成果を自らの助産実践に活用できる</p>			<p>・講義（キャリアパス／クリニカルラダー）</p> <p>・OJT</p> <p>※目標管理を取り入れている施設は、個人目標を立てるプロセスを活用する</p>	振り返り、ポートフォリオ

※表内 青字：新人オリエンテーション内容  
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容

		教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価	
専門的 自律能力	研究	①自らの関心に合わせた先行研究文献を読み、研究に関心をもつことができる ②研究に関する知識を深める	・講義（院内外の学会や研究会の紹介／自施設・自部署における研究活動の紹介）	院内における研究発表会への参加	
	コミュニケーション （対人関係）	①対象のニーズを身体・心理・社会的側面から把握するように努められる ②対象を一人として尊重し、傾聴・共感的な態度で接することができる（笑顔、挨拶、自己紹介、言葉遣い、約束を守るなど） ③対象中心のサービスであることを認識して接するように努められる ④言語的・非言語的コミュニケーション技法について理解できる ⑤支援を受けながら、対象が納得できる説明を行い、同意を得られる ⑥守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮できる ⑦5W1Hを踏まえてメモをとり、正確に伝達できる	・講義およびOJT（接遇・コミュニケーションの基本）	振り返り	
	倫	社会性	①職務規定を理解し、それを遵守して行動できる（遅刻・早退・無断欠勤をしない等） ②規定に基づき、速やかに報告・連絡・相談できる ③社会人また助産師としての自分の行動・言動に責任を持つことを理解できる ④助産師として、自分の健康管理の必要性がわかり行動できる ⑤助産師としてのアイデンティティをもち、その専門性・自律性を理解して実践できる	・講義およびOJT（接遇、身だしなみ／職務規定）	その場でチェック
	理	助産倫理	①ICM－助産師の国際倫理綱領、ICN－看護師の倫理綱領および日本看護協会－看護師の倫理綱領を理解できる ②助産業務に関連する生命倫理を意識できる ③職業人としての自覚をもち、倫理に基づいて行動できる	・講義およびOJT（ICM－助産師の国際倫理綱領／日本看護協会－看護師の倫理綱領）	振り返り
	管理（マネジメント）	安 全	【安全管理・安全確保】 ①自施設における医療安全管理体制について理解できる ②インシデント事例や事故事例を速やかに報告できる ③インシデント事例や事故事例について、支援を受けながら経過を振り返ることができる ④インシデント事例や事故事例についての報告・記録方法がわかる ⑤周産期に起こり得る事故について、支援を受けながら予測でき対策をとることができる（新生児の取り違い、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、やけど、盗難など） ⑥規定に沿って適切に医療機器・医療器具を取り扱うことができる 【感染予防】 ①自施設における感染予防管理体制について理解できる ②①に則って行動できる（スタンダードプリコーション、必要な防護具選択、衛生的な手洗い、無菌操作、清潔・不潔の区別、医療廃棄物規定に則った適切な取り扱い等） 【災害・防災管理】 ①自施設における災害・防災管理体制について理解できる ②部署の管理体制（消化設備、避難経路）などがわかる ③②に基づいて日常的に行動できる（病棟入口の戸締り、面会者の確認など） ④災害発生時の初期対応がわかる ⑤災害時、指示に従い、④の行動ができる ⑥定期的な災害訓練に参画できる 【情報管理】 ①自説における情報管理体制について理解できる ②①に基づいて行動できる（記録、PC、パスワード、患者情報など）	・講義（助産師に関連する法律／産科医療補償制度／看護職賠償責任保険／各種ガイドライン※の活用／リスクマネジメントの基本／感染の基礎知識〔含む母子感染〕／災害対策の基礎知識／情報管理〔施設内の情報管理規程、医療情報の取り扱い、対象への情報提供等〕） ・シミュレーション（災害訓練、妊産婦・新生児の緊急時の対応）	シミュレーション時の確認・振り返り
		経済性	①支援を受けながら、費用対効果を考慮して、物品を適切に選択・準備・使用できる ②支援を受けながら、対象の負担を考慮して、物品を適切に使用できる ③支援を受けながら、時間の使い方を考えることができる	・講義およびOJT（業務管理・時間管理）	振り返り
		リーダー	①施設および看護部の理念を理解できる ②施設および看護部の組織と機能を理解できる ③チーム医療の構成員としての役割を理解して協働できる（報告・連絡・相談ができる、事実を正しく報告できる） ④同僚や他の職種とコミュニケーションできる	・講義（院内助産システムと助産師の役割／所属する組織とその役割・医療提供体制／メンバーシップ／目標による管理／チーム医療における助産師の役割や連携・協働のあり方）	振り返り

※表内 青字：新人オリエンテーション内容  
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容